

特産振興と今後の試験研究課題

1. 林業総合センターの任務

県では昭和63年度に来る21世紀に向けての「森林・林業の発展を期するための長期構想」を策定しました。その目標に向けてさまざまな施策が展開されつつありますが、林業の基本でもある林業経営の活性化並びに特産の振興などは、当然のことながら施策の主要な柱となっております。

その施策の中での課題の一つとして、

「バイオテクノロジー技術を活用して、特用林産物の多品目化、高付加価値化を図るとともに、農業との経営の複合化の振進により、森林・林業経営の向上を図る……」ということを取りあげておりますが、当センター特産部は、この課題解明の一翼を担っているといえます。

もとより当部の主なる任務は、地域林業の活性化につながるための、きのこを主体とした特用林産物栽培技術の高度化と、栽培者の所得の向上、経営の安定化に関する試験研究の実施と、その指導に努めることであります。

2. 試験研究を要する課題

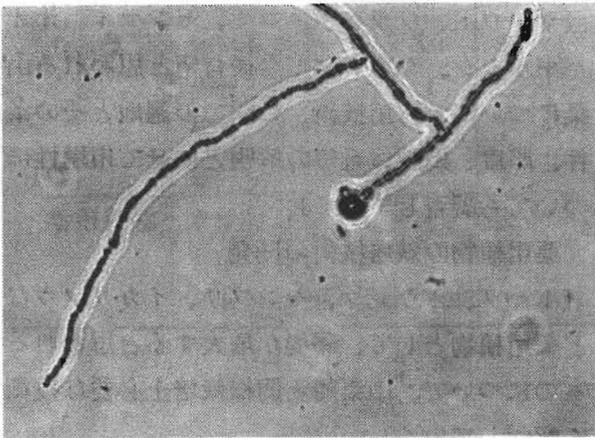
前述の長期目標の達成を図るために、現在実施しております課題を含めて、今後取り組んでいかなければならない課題をあげてみると、次のようなものがあります。

(1) きのこ類の安定生産技術の開発

本県のきのこ類の生産額は500億円に達し、なお需要も全般に増大傾向にあり、今後もこれに対応してゆくためには、まず、より優良な品種、系統の作出、新しい品目の導入とそれぞれの品目について、地域に適応した栽培技術の開発を図って



写真一 きのこ総合実験棟



写真二 プロトプラストからの菌糸の再生
(ナメコ)

いこうというものです。

そのための課題としてあげてみますと、

ア より優良な品種の作出

〔野生きのこを収集し、これら野生種と現在の栽培種を用い、細胞融合等バイオ技術により、優れたきのこの品種とか、カラマツ、ヒノキ等本県に多い針葉樹間伐材、あるいは現在利用されている広葉樹材に栽培できる品種などを開発していく〕

イ 市販品種から適応品種の選定

〔多量に市販されている品種の中から、本県に多い寒冷地域の気象条件に適応する品種とその栽培技術、また、空調施設栽培においては確実性と高品質多収性をもった品種の探索をするための検定試験を行っていく〕

ウ バイオマス利用による栽培技術の開発

〔除間伐材、マツ枯損材、落葉落枝さらには廃ホダ、廃オガなど現在あまり利用されていない有機物資源を活用して、栽培できるようなきのこの品目を選び、これらについての栽培技術を開発していく〕

エ 木材腐朽性きのこ栽培技術の高度化

〔原木を用いて栽培しているきのこの品種別栽培技術、特にシイタケについては「より高品質、より多収化」を目的に原木の取扱い、生産管理技術の体系化を図っていく〕

また、最近急増傾向にある菌床シイタケについては、まず安定的かつ効率的栽培ができる技術の確立を図っていく〕

オ きのこと栽培基材の開発

〔品目別のきのこ栽培に適する樹種、材の品質及び菌床栽培に利用できるオガコ用樹種とその組成、あるいはオガコ適樹種の不足からくる伐替材、栄養源さらには容器などについても解明していく〕

カ 活物寄生きのこの増産技術の開発

〔マツタケやホンシメジなどについては、従来からの研究実績に加え、胞子や培養菌糸さらには菌根等を利用しての人工によるシロの造成法をみい出し、これらの技術をマツ林の環境改善施策と併せて行い、マツタケ等の増産のための技術体系化を図っていく〕

キ 死物寄生きのこの栽培技術の開発

〔野生の死物寄生きのこの中から、現在はまだ普及していないが、将来有望と思われる品目を対象に、その特性調査と併せて栽培技術を開発していく〕

ク きのこと栽培における害菌防除技術の確立

〔きのこ栽培には常に害菌問題が大きな課題としてつきまってくるので、これら害菌についての生理、生態を解明し、栽培管理の改善とその防除方法の確立を図っていく〕

(2) 山菜、特用樹等の栽培技術の高度化

近年食生活の多様化、自然食品志向などにより、山菜等特産物の需要が増加してきております。

しかしながら薬用植物も含めて、個々の品目の栽培方法、市場性などについては、まだ不明の点が多いので、これらの中から本県に適合するような品目を選び、主として林間を利用した栽培技術を開発していこうというものです。

主な課題としては、

ア 山菜類の栽培技術の開発

〔ヤマウド、ワラビ、コゴミ、ゼンマイ、オオバギボウシ、シオデなど今後有望と思われる山菜について、育苗技術、林間での適地とその条件、照度、施肥体系等の解明と併せて市場性についても調査していく〕

イ 薬用植物の栽培技術の開発

〔キハダ、オウレン、センブリ、イカリソウなど薬用植物として、需要が増大すると思われるものについて、山菜類と同様栽培上必要な技術を解明していく〕

ウ 特用樹の栽培技術の開発

〔クリ・クルミ（果実）、ウルシ（樹液）など山野を活用した栽培が望まれているこれらについて、栽培地の条件、施肥及び剪定等一連の仕立て管理技術の確立を図っていく〕

(3) 農林複合経営の育成

シイタケやナメコなどの栽培は、その多くの方が農林業の複合経営の中で行われておりますので、これら複合経営におけるきのこの栽培について、まず全県的に形態調査を行い、実態を把握する中から問題点と課題を抽出し、改善策を見出していきたい。

これらの検討を図りながら、諸々の条件下における経営類型、好ましい規模、栽培方式等を模索し、ねらいとして、経営診断システムと複合経営育成のための指標を作成しようとするものです。

3. 試験研究に取りあげたい課題の選定

森林・林業の長期目標にある特産振興を図るため、技術開発を必要とする主な課題は、前述のように多々ありますが、これとは別途に県では毎年林業経営者、栽培者、これらの組織団体、さらには市町村、森林組合等から、林業技術の研究開発を必要とする課題について、その希望を徴してお

ります。

その中では、きのこ関係を主とした特産部門への要請が際立って多い現状です。

これら両方面からあげられてきた課題について一度に取り組むことは無理のことですから、中でも特に要望が強く、かつ緊急に究明を要すると思われる一・二の課題をまず選び、次年度から取り組みたい課題としております。

これら課題の実施に当たっては、少しでも栽培者をはじめ関係者の要望にこたえられ、かつ特産の振興に役立つような成果が得られることを目途に努めております。